

目次

- ・ HC 賞授賞のご報告
〔庶務幹事〕 松田 昌史 (NTT テクノクロス)
- ・ HCG シンポジウム 2024 開催のご報告
〔企画幹事〕 赤坂 文弥 (産総研)
- ・ 2025 年総合大会開催のご案内
〔企画幹事〕 堤 公孝 (長崎大学)
- ・ FIT2024 (第 23 回 情報科学フォーラム) 開催のご報告
〔企画幹事〕 堤 公孝 (長崎大学)
- ・ HC 特集号投稿のご案内
〔HC 特集号編集委員長〕 近藤 一晃 (京都大)
- ・ 研究会活動紹介 (WIT)
- ・ 研究会活動紹介 (CC)

HC 賞授賞のご報告 〔庶務幹事〕 松田 昌史 (NTT テクノクロス)

2024 年度ヒューマンコミュニケーション (HC) 賞授賞式が、2024 年 12 月 12 日 (木) に HCG シンポジウム 2024 の会場である「金沢歌劇座」で開催されました。受賞者には伊藤京子 HCG 運営委員長より賞状が贈呈され、各受賞者からは受賞スピーチが行われました。

HC 賞は、過去 1 年間に開催されたヒューマンコミュニケーショングループの第一種研究会 (HCS, HIP, MVE, WIT) における技術研究報告を対象とし、各研究専門委員会に設置された審査委員会の厳正なる審査の下に選出されます。受賞件数は、対象期間の発表 25 件につき 1 件、以降 50 件ごとに 1 件を基準としています。そして、HCG が授与する賞の中で最も権威の高い賞となります。本年は次の 6 件の発表が HC 賞を受賞されました。

○ヒューマンコミュニケーション基礎研究会 (HCS)

(1)

発表者：蔵内雄貴，樋口大樹，篠原亜佐美，小林哲生 (NTT)，西村倫子，岩淵俊樹，土屋賢治 (浜松医科大)
題目：1 歳時点での語彙に着目した自閉スペクトラム特徴の予測 ～機械学習を用いた検討～
資料番号：HCS2024-46

(2)

発表者：奥村優子，服部正嗣，藤田早苗，小林哲生 (NTT)
題目：ロボットが見ている ～5 歳児はロボットとの交流後に自身の評判を気にする～
資料番号：HCS2024-1

○ヒューマン情報処理研究会 (HIP)

(3)

発表者：吉田圭吾，清川宏暁，栗木一郎 (埼玉大)
題目：質感の要素知覚メカニズムの独立性の検討
資料番号：HIP2023-86

○メディアエクスペリエンス・バーチャル環境基礎研究会 (MVE)

(4)

発表者：松田頼子，平尾悠太朗，ペルスキア エルナンデス モニカ，内山英昭，清川清 (奈良先端大)
題目：バーチャルリアリティ技術を活用したドラマセラピーに関する研究 ～セ

セッション内容の検討と分析～
資料番号：MVE2023-105

(5)
発表者：山口貴善，三上弾(工学院大)，松村聖司，西條直樹，柏野牧夫(NTT)
題目：ゆったりとした衣服を着用した人物の姿勢推定 ～HFRカメラと複数LEDを用いた学習データ作成～
資料番号：MVE2023-32

○福祉情報工学研究会(WIT)
(6)

発表者：有隅惟人，平尾悠太郎，ペルスキア エルナンデス モニカ(奈良先端大)，磯山直也(大妻女子大)，内山英昭，清川清(奈良先端大)
題目：環境音認識によりインタラクティブにオノマトペを表示するAR擬音語学習システム
資料番号：WIT2023-40

いずれの研究も研究視点，手法，結果の新規性，独自性および有効性，各分野への発展性や応用可能性などの観点から高く評価されました。各発表の技術研究報告も是非あわせてご一読ください。

受賞一覧はシンポジウムのweb(下記URL)でも公開しております。また，HCGシンポジウム2024の会期中に投開票された発表賞の結果も掲載されています。ぜひともご覧ください。
<https://www.hcg-ieice.org/hcg-symposium/2024/award/>

HCGシンポジウム2024開催のご報告
〔企画幹事〕 赤坂 文弥(産総研)

今年度で22回目を迎えたHCGシンポジウム2024が2024年12月11日(水)～2023年12月13日(金)の日程で、石川県金沢市の歌劇座にて開催されました。今回は、完全に対面形式での開催となり、口頭発表、インタラクティブセッション共に、非常に活発なコミュニケーション、議論が行われました。

発表件数は128件(口頭発表92件、インタラクティブ発表のみ36件)であり、多くの発表を頂きました。さらに2件の招待講演も開催されました。また、参加者登録は3日間合計で239名であり、例年以上に多くのお申込みとご参加を頂くことができました。ご発表、ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

今年度も3日間のインタラクティブセッションに対して、参加者の投票により決定されるインタラクティブ発表賞(最優秀・優秀・学生優秀)が贈られました。受賞者一覧がウェブサイトに掲載されておりますので、ご覧ください。
<https://www.hcg-ieice.org/hcg-symposium/2024/award/>

次回のHCGシンポジウム2025は、2025年12月10日(水)～2025年12月12日(金)の日程で開催される予定です。
次回は、福岡県北九州市での開催を予定しております。みなさまのご参加をお待ちしています。

2025年総合大会開催のご案内
〔企画幹事〕 堤 公孝 (長崎大学)

2025年電子情報通信学会総合大会の開催をお知らせいたします。
・会期：2025年3月24日(月)～28日(金)

- ・会場：東京都市大学世田谷キャンパス（東京都）
- ・スローガン：人の知的な交流が技術を創る

最新の情報につきましては下記をご覧ください。

https://www.ieice.org/jpn_r/activities/taikai/general/2025/

電子情報通信学会では、毎年春に総合大会、秋にソサイエティ大会を開催しています。

総合大会はヒューマンコミュニケーショングループ（HCG）に加え、学会を構成する5つのソサイエティ（基礎・境界、NOLTA、通信、エレクトロニクス、情報・システム）が一堂に会して開かれる大規模なものです。

今回の総合大会においては、3月24日にGlobalNet WorkshopとInternational Reception Partyや、各研専の多彩なセッションや企業展示等の企画、3月25日にWelcome Party、3月26日に大会プレナリーセッションと懇親会など、皆様の交流の場が多く設けられています。

プレナリーセッションでは、学術奨励賞授賞式・教育功労賞授賞式・フェロー称号贈呈式といった一連の表彰式が執り行われます。

セッション後半では基調講演2本が予定されています。最初に「重力波で探る宇宙の旅」との題目で梶田隆章氏（ノーベル賞受賞者）にご講演頂いたのち、「テラヘルツ波のこれまでとこれから～鍵を握る半導体と光電融合～」と題して永妻 忠夫氏（東京大学教授）からご講演頂きます。プレナリーセッションだけでなく例年、一般セッション、多数の企画講演セッションが行われています。

ぜひこの機会に、皆様お誘い合わせの上、ご参加をご検討下さい。

多くの方々のご参加を心よりお待ちしております。

FIT2024（第23回情報科学フォーラム）開催のご報告 [企画幹事] 堤公孝（長崎大）

第23回情報科学技術フォーラム FIT2024が、9月4日から6日まで、広島工業大学 五日市キャンパスにおいて開催されました。

本フォーラムは、IPSJ全国大会とISSソサイエティ大会との流れを汲むものですが、従来の大会の形式にとらわれずに新しい発表形式を導入し、タイムリーな情報発信、活気ある議論・討論、多彩な企画、他分野研究者との交流などを実現することで、2002年から毎年継続して開催しております。今年度も、活発な質疑が行われました。

情報技術分野における顕著な業績に対して贈られるFIT2024 船井業績賞を受賞されたLing Liu氏（ジョージア工科大学教授）の受賞記念講演も行われました。次回は、2024年9月3日から5日に、北海道科学大学で開催予定となっております。

-
- ・HC特集号投稿のご案内
[HC特集号編集委員長] 近藤 一晃（京都大）
-

ヒューマンコミュニケーション特集号論文募集のお知らせ

電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループではヒューマンコミュニケーションに関する論文を和文両分冊の特集号で同時に募集しております。和文論文は和文論文誌A分冊に、英文論文は英文論文誌D分冊に区別して投稿していただくこととなりますが、採否通知などのスケジュールや編集委員会は同じであり、審査は分冊によらず均一です。

それぞれの分冊におけるCFPIは以下の通りです。皆様の奮ってのご投稿をお待ちしております。

ヒューマンコミュニケーション特集（和文論文誌(A) 英文論文誌(D) 合同）論文募

集

ヒューマンコミュニケーショングループ編集委員会

情報通信技術（ICT）の進歩によって私たちの生活の利便性は向上する一方で、生活の多様化・複雑化に伴いプラスの側面ばかりとは限りません。技術の進化は私たちの一人一人の生活を変えると同時に、他者や生活環境との関わり方をも変えていきつつあります。このような状況のもと人が技術・社会・環境と相互に豊かに関わるためのコミュニケーションの研究を横断的に議論する必要性から、ヒューマンコミュニケーショングループ（HCG）では、各種研究会およびシンポジウムを定期的開催し会員の交流の場を提供してきました。さらにヒューマンコミュニケーションに関連する研究成果を論文として広く情報発信するため、和文・英文論文誌のA、D分冊のいずれかで毎年特集号を発行してきました。今回は、この特集号をより発展させるために、昨年度に引き続き和文論文誌A分冊と英文論文誌D分冊と合同で特集号を企画しました。つまり本特集号では、ご自身の研究内容やニーズに応じた言語を選んで研究成果を投稿・発信することができます。和文論文は和文論文誌A分冊に、英文論文は英文論文誌D分冊に区別して投稿していただくこととなりますが、スケジュールや編集委員は同じであり、審査は分冊によらず均一です。独自の論文誌を有していないヒューマンコミュニケーショングループの会員にとって、本特集は日頃の研究成果を発表する絶好の機会です。また研究分野として深い関連性を有する基礎・境界ソサイエティ、情報・システムソサイエティの会員にとって、有益な情報提供の場となっています。日頃の研究成果を論文として広く国内外に情報発信する絶好の機会ですので、是非投稿を御検討ください。

1. 対象分野

- ・ヒューマンコミュニケーション基礎
- ・ヒューマン情報処理
- ・メディアエクスぺリエンス・バーチャル環境基礎
- ・福祉情報工学
- ・ヒューマンプロンプト
- ・情報の認知と行動
- ・魅力工学
- ・コミック工学
- ・ヴァーバル・ノンヴァーバル・コミュニケーション
- ・リアルタイムコミュニケーション言語
- ・その他、ヒューマンコミュニケーションに関する全般

2. スケジュール

- ・投稿期限 2025年 4月22日（火）
- ・論文発行 2026年 4月号

3. 投稿方法

以下は和文論文誌Aに投稿する場合です。英文論文誌Dに投稿する場合は、【URL（CFP公開時に発行）】に記載されている手順・内容に沿ってください。

・電子情報通信学会論文投稿システム（下記URL）を用いて「A 基礎・境界：[特集 HA] ヒューマンコミュニケーション」へ電子投稿してください。
https://review.ieice.org/regist/regist_baseinfo_j.aspx

・追加のデジタルデータを論文の査読プロセスにおける参考資料として添付したい場合は、下記に従って送付してください。

1. 論文本体は完結する首尾一貫した内容であることが求められ、添付されるデジタルデータはあくまでも査読プロセスにおける参考資料として利用されます。
2. たとえデジタルデータを添付した論文が採録されたとしても、論文誌やそれに準ずるメディアにはその論文のみが掲載され、添付されたデジタルデータは公開されません。
3. デジタルデータの容量上限については以下のようにさせていただきます。
 - (a) 1ファイルあたりの上限は50MBとします。
 - (b) 1論文あたりのファイル容量・ファイル数に上限はありませんが、音声・動画の場合は5分程度を上限としてください。
4. 投稿論文へのデジタルデータの添付（提出）方法は以下の通りです。

- (a) デジタルデータを収録したメディア（CD/DVDあるいはUSBメモリ）を事務局まで投稿締切日までに送付してください。
- (b) 必ず投稿した論文のタイトルおよび著者等を分かりやすく表記し、投稿論文とメディアとが正しく対応づくようにしてください。

4. 特集号編集委員会

委員長：酒向 慎司（名古屋工業大学）

副委員長：近藤 一晃（京都大学）

幹事：

大塚 和弘（横浜国立大学）

川崎 真弘（筑波大学）リエゾン委員

前田 義信（新潟大学）

委員：

宮城 愛美（筑波技術大学）

田中 貴紘（名古屋大学）

山西 良典（関西大学）

酒井 元気（日本大学）

中澤 篤志（岡山大学）

木村 篤信（東京理科大学）

三上 弾（工学院大学）

菊地 浩平（筑波技術大学）

川原 靖弘（放送大学）

三浦 哲平（豊田高専）

新見 亮輔（新潟大学）

5. 付記

1. 論文採録の場合には、掲載料をお支払い頂きます。期限までに掲載料の支払いがない場合は採録取り消しになりますのでご注意ください。

2. 投稿者に非会員が含まれている場合には、この機会に入会することを勧めます。著者全員が非会員の場合、非会員掲載料が適用されます。ただし、招待論文に関してはこの限りではありません。入会の案内はこちらを御覧ください。

(https://www.ieice.org/jpn_r/member/join.html)

6. 問い合わせ先

酒向 慎司（名古屋工業大学）hcg-tokushu-kanji@hcg.ieice.org

Special Section on Human Communication VII

The IEICE Transactions on Information and Systems announces that it will publish a special section entitled “Special Section on Human Communication VII” in June 2026.

Human Communication Studies focus on the role played by Information and Communication Technologies (ICTs) in human communication processes. It is committed to improving the theory and methodology concerning the adoption, use, applications, effects, and the psychological, social, and policy implications of ICTs. Areas of research include computer-mediated communication, new media, social media, augmented and virtual reality, assistive technology, technology studies, big data, crowdsourcing, privacy, digital news, crisis, and other technologically mediated social interaction and networking at all levels of analysis (interpersonal, interpersonal, group, organizational, national, and international). The objective of this special section is to publish and overview recent progress in the interdisciplinary area of human communication. We call for papers that make an innovative and original contribution to our understanding of ICTs, with a focus on the technology itself within the context of human communication. But the topics are not limited to this domain. The related interests are highly welcomed. All submitted papers are subjected to the same review processes as those papers accepted for publication in the regular issues.

1. Scope

This special section aims at timely dissemination of research in these areas. Possible topics include, but are not limited to:

- Human communication sciences
- Human information processing
- Media experience and virtual environment
- Well-being information technology
- Human probe
- Informatics science on cognition and behaviors
- Verbal and nonverbal communication
- Attractiveness computing
- Comic Computing
- Language as Real-time Communication

2. Submission Instructions

- A manuscript should be prepared according to the guideline given in “The Information for Authors” (https://www.ieice.org/eng/shiori/mokuji_iss.html). We encourage the authors to use the IEICE Style File (<https://www.ieice.org/ftp/index-e.html>). The preferred length of the manuscript is 8 pages for a PAPER and 2 pages for a LETTER with the format determined by the IEICE Style File.
- Submit the manuscript through the IEICE Web site (https://review.ieice.org/regist/regist_baseinfo_e.aspx). Choose “[Special-HC] Human Communication” in the menu of “Journal/Section” in the submission page. Do not choose “[Regular-ED] Information and Systems” or other special sections.
- Authors must agree to the “Copyright Transfer, Article Processing Charge Agreement, Notices from the IEICE, and Privacy Policy” via electronic submission.
- Submission deadline of the manuscript is *** 22 April 2025 ***

Contact:

Special Section Editorial Committee: hcg-tokushu-kanji@hcg.ieice.org

3. Special Section Editorial Committee

Guest Editors-in-Chief: Shinji Sako (Nagoya Institute of Technology)

Guest Associate Editors-in-Chief: Kazuaki Kondo (Kyoto University)

Guest Associate Editors:

Kazuhiro Otsuka (Yokohama National University)

Masahiro Kawasaki (University of Tsukuba)

Yoshinobu Maeda (Niigata University)

Manabi Miyagi (Tsukuba University of Technology)

Takahiro Tanaka (Nagoya University)

Ryosuke Yamanishi (Kansai University)

Motoki Sakai (Nihon University)

Atsushi Nakazawa (Okayama University)

Atsunobu Kimura (Tokyo University of Science)

Dan Mikami (Kogakuin University)

Kouhei Kikuchi (Tsukuba University of Technology)

Yasuhiro Kawahara (The Open University of Japan)

Tepei Miura (National Institute of Technology Toyota College)

Ryosuke Niimi (Niigata University)

*Upon accepted for publication, all authors, including authors of invited papers, should pay the article processing charges covering partial cost of publication around November 2025. If payment is not completed by 15 December 2025 your manuscript will be handled as rejection.

*The standard period of 60 days between the notification (of conditional accept) and the second submission can be shortened according as the review schedule.

*If there are non-members among the authors, we recommend that the

authors take this opportunity to join the IEICE. For detailed information on the IEICE Membership Application, please visit the webpage, https://www.ieice.org/eng_r/join/individual_member.html. If all authors are non-members, the article processing charge for non-members will be applied, except for invited papers.

*Open Access Publishing: All papers published in the IEICE Transactions on Information and Systems since January 2008 have been opened to all readers in the world through J-STAGE. <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/transinf>

*IEICE will begin a multilingual (16 languages) translation trial of IEICE Transactions Online in April 2024. Please visit https://www.ieice.org/eng/s_issue/cfp/triale.pdf for details.

・研究会活動紹介 (WIT)

福祉情報工学研究専門委員会 (WIT:Well-being Information Technology) では、障害者・高齢者の情報・通信に関するさまざまな科学技術について、多くの研究者・開発者が集まって発表や討論をしています。

WITのウェブサイトには、

「先進の情報通信技術で障害者や高齢者が取り残されない社会をつくる」の文言が記載されています。

その下には、「WIT研究会はどなたでも無料で参加（聴講）できます」ともあります。

「無料で参加」には、より多くの人に福祉情報工学分野の研究を知って欲しい、そして、研究に参加してほしいという思いがあります。

今年度のHC賞（ヒューマンコミュニケーション賞）受賞研究の「環境音認識によりインタラクティブにオノマトペを表示するAR擬音語学習システム」は、まさに支援対象となる当事者が参加している研究で、外国人・聴覚障害者が擬音語を学習するためのシステムを提案・評価しています。

環境音からオノマトペとその音源方向を推定しARゴーグルを介して可視化する擬音語学習システムを開発し、評価実験によって有効性が示されています。

聴覚障害者の支援や日本語学習といった幅広い分野において有益な技術や知見が得られている研究といえるでしょう。

やはり、こうした研究には当事者の参加が不可欠であり、研究者・研究会・学会としても参加を促すための努力が必要であると感じます。

当事者の参加を促し、生活の中から得られた課題やニーズを知り、ともに解決するための研究が必要なのではないでしょうか？

同じ志を持つ研究会の一つとして、情報処理学会・アクセシビリティ研究会（AAC）があり、2017年より連携した活動を続けています。

また、2024年2月には画像電子学会より依頼を受け、WITとAACから視覚障害者支援、ろう・難聴者の支援技術に関する招待講演をさせていただきました。

さらに、映像情報メディア学会誌2025年1月号にはWIT元委員長の筑波技術大学の若月先生、次期委員長の九州工業大学の齊藤先生、NHKの内田様がそれぞれの専門領域について寄稿されています。

今後も学会・社会からのニーズに応えられるようなWITであり続けたいと思います。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

さて、最後に研究会開催のお知らせです。

3月10・11日（月・火）には筑波技術大学（茨城県つくば市）にて、アクセシビリティ研究会との連催研究会が開催されます。

例年、筑波技術大学の視覚・聴覚障害学生の研究発表や聴講もあり、当事者の視点を反映した研究の斬新さに驚かされることも多いです。

文字通訳や手話通訳といった情報保障が当たり前になる社会の実現を目指し、今後も活動を続けてまいります。

*情報保障：誰もが等しく情報を入手する環境を整えること

情報保障のため、発表者には開催1週間前の発表スライド提出をお願いしてい

ます。
発表時の話し方の注意などもアナウンスされ、この研究会での発表は発表技術の向上に役立つかもしれません。
皆様のご参加をお待ちしております。
WITのウェブサイト、<https://www.ieice.org/~wit/>

・研究会活動紹介 (CC)

コミック工学研究会では、年に1回ずつ研究発表会とシンポジウムをそれぞれ開催している。特徴的な取り組みとして、シンポジウムでは、漫画家や出版社、漫画の描画ツールや漫画の配信を扱う産業分野からも広く参加者を募って、漫画の情報処理のこれまでと未来へのビジョンを共有している。

2024年11月30日に立命館大学東京キャンパスで開催されたコミック工学シンポジウム2024には、30名の聴講者が参加した。漫画家・イラストレータ7名、産業界からの参加者10名が含まれている。本シンポジウムは、参加者の希望者によるライトニングトークセッションとManga109からの研究事例の招待講演セッションから構成された。

ライトニングトークセッションでは、研究者・学生による研究事例の紹介のほか、漫画家からの描画時におけるインタラクションの詳細事例の紹介や描画ツールへのリクエスト、最新技術の漫画への導入に向けた展望、企業での取り組みが共有された。漫画の情報処理に関するニーズの発掘として有意義な議論が行われた。

招待講演セッションでは、コミック工学研究会委員長の相澤 清晴より、Manga109構築の経緯や研究の方向性についての提言があった。その後、4名の招待講演者より、漫画中のオノマトペを対象としたText in wild処理の研究や、言語・画像のマルチモーダル学習によるセリフの話者同定、人工知能による漫画の認知に関する知見が共有された。また、漫画の世界的な人気と広がりを踏まえ、漫画の即時の機械翻訳サービスのしくみと応用の様子が共有された。会議後は会場近隣にて懇親会を開催し、産学芸それぞれのフィールドで漫画の情報処理に係る人々の意見交換が続いた。

ヒューマンコミュニケーショングループ研究会・関連行事について、詳しくはHCG ホームページ<http://www.hcg-ieice.org/>をご覧ください。

□■□
電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ
Copyright (c) 2023 IEICE, All Rights Reserved.
□■□

このメールアドレスは送信専用となっております。
返信は受付できませんので、ご了承ください。
電子メールによる情報配信を必要としない方は、
マイページにアクセスし、左メニューにある各種申請の
「メールアドレス／メール配信変更」から配信停止の
手続きをお願い致します。
ただし、すべての情報配信を希望されない場合でも、
選挙や会費のお知らせ等の学会からの重要なお知らせ
については配信されますので、ご了承ください。

マイページ : <https://cmweb3.ieice.org/Kjn/JP/>
